



THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS  
「ロータリーの未来はあなたの手の中に」  
RI 会長 ジョン・ケニー

「今こそ私たちの出番です」  
ガバナー 大塚信郎



2009-10 大宮ロータリークラブテーマ 「ロータリーを学ぼう・ロータリーで学ぼう」



# ROTARY CLUB OF OMIYA

## 大宮ロータリークラブ週報

会 長:川島利雄  
副会長:平田 繁  
幹 事:橋本和久  
クラブ会報担当:小林義久

No. 2055 第2696例会 2009年10月21日(水) 発行:10月28日

### 会長あいさつ

皆さんこんにちは。

本日は東京大森ロータリークラブより大沼忠弘様をお迎えしております。平田副会長からのご紹介にあったように私の次兄にあたります。大宮北ロータリークラブから高橋 良会長さん、並びに昼間孝一幹事さんをお迎えしております。後ほどご挨拶をいただきます。

10月19日(月)に第3グループ会長幹事会がアウルホテルにて行われました。11月14日(土)、15日(日)の地区大会には当クラブは全員登録となりますので、いまからご出席予定の準備を宜しくお願いいたします。また来年2月9日(火)にはインターシティミーティング(1M)が清水園で行われます。記念講演の講師は松井 和氏という方です。児童福祉教育の第一人者で、いままでも各地で感動的な講演をなさってきたそうです。講演タイトルは「親心の幸福論・なぜ私たちは0歳児を授かるのか」。こちらも全員登録となりますので、お楽しみに。

10月20日(火)、昨日は春日部ロータリークラブの45周年の記念式典が開催され、橋本幹事共々行ってまいりました。大宮ロータリークラブが親クラブとは言え、54歳と45歳ではもう兄弟みたいなものですね。大宮から来ましたと言うだけで、田村友彦会長を始め石井パストガバナーなど春日部ロータリークラブの皆様から歓待を受けました。当初スピーチはありませんとアナウンスを受けていたので安心していましたが、懇親会では親クラブと言うことで急にスピーチを振られました。もしやと思いきの電車の中で 아이폰 を使って春日部ロータリークラブのホームページを調べておいてよかったです。春日部ロータリークラブは台湾の中壢ロータリークラブと36年にわたる姉妹提携を結んでおり、台湾から21名もゲストが大挙して来ていて、全員で100名を超える式典が盛大に行われました。中国語ではロータリークラブは扶輪社と言うそうです。扶は扶養家族の扶、その字義は「手を当てがう、支える、助ける」なので、輪になって助け合う団体のことですね。イメージとしては、転がる輪を倒れないように手で支えている感じもします。当然のことながら会長とは言わないで、社長と言うのだとは初めて知りました。会場は東京湾ベイ



クルーズ・シンフォニー(船)ということで、パーティー後はナイトクルーズを楽しんできました。

さて先月の岩崎彰会員のご子息の結婚に続き、今週の日曜日に渋谷理俊会員のお嬢さんの渋谷香理さんが結婚式を挙げられます。おめでとうございます。お相手は5年前にトレントン交換学生として大宮ロータリークラブにきたダニエル・ホフマンさんです。ダン君のお母さんがトレントンロータリークラブの会員であることは知っていましたが、ダン君と香理さんのお2人が海の向こうで密かに愛を育んでいた事はしらなかったで、大きな驚

きとともに、この交換プログラムが初めてのカップルを生んだことに大きな喜びを感じています。それにしても太平洋を挟んで5年越しの超長距離恋愛で結ばれたお2人の絆の深さには敬意を表します。式は明治神宮の神前で純日本式に行うそうです。両家ともごく内輪だけの披露宴なのですが、そんな訳でロータリーの会長としてご招待いただきましたので、喜んで出席させていただきます。渋谷会員へのお祝いは11月の初例会のセレモニーで改めてお渡ししたいと思います。

今年の正月に実家の大沼家の長兄の家に徐々に3人兄弟が集まり、私は実は今年大宮ロータリークラブの会長をやることになったと切り出したら、次兄から「何だお前もか、おれもやることになったんだ。」と言われ、その偶然に驚きました。今日ゲストでお迎えしている、東京大森ロータリークラブ会長の大沼忠弘氏です。私たちは下町生まれの宮町育ちでして、この大和証券ビルの隣に長兄の経営するテーラー大沼という洋服店がありまして、そこで成人を迎えました。兄弟でロータリーの会長をするのはそう珍しくはないことですが、まさか同じ年度とは…。それならお互いにメーキャップをし合おうやと言うことで今日の卓話を依頼した訳です。生まれ故郷の大宮に因んでタイトルは「氷川之神」だそうです。大沼会長さん後ほど卓話を宜しくお願いいたします。

第54代 大宮ロータリークラブ会長  
川島利雄

大宮北ロータリークラブ  
第37代会長 高橋 良様  
幹事 昼間 孝一様



皆様、こんにちは。私の父が第11代、昼間君のお父様が第20代の会長をしております。我々も2代目という事で、こうしてられましたのもひとえに大宮ロータリークラブ、諸先輩方の御指導の賜とっております。まず、厚く御礼申し上げます。

本日は第9回ふれあいフェスタの宣伝に参りました。大宮駅の隣の高崎線「宮原駅」にて今週の25日(日)西口商工会主催、大宮北ロータリークラブが後援でフェスタを行います。そこで「ポリオ撲滅」ということで大宮北ロータリークラブのブースを出します。募金活動とエコキャップ収集活動をしておりますので、お時間のある方はぜひ宮原駅へいらして下さい。よろしくお願ひ致します。

マルチプル・ポール・ハリス・フェローピンの贈呈



関口 茂 会員 (2回目)

【幹事報告】

■橋本和久 幹事  
(大宮ロータリークラブからのお知らせ)  
11月14日(土)・15日(日)  
(地区大会について)



於：さいたま市文化センター  
全員登録していますので皆様の出席よろしくお願ひ致します。

【委員会報告他】

■「あら100ゴルフの会」中川高志 委員長  
第3回「あら100ゴルフの会」を12月13日(日)大宮ゴルフコースにて開催致します。みなさんぜひご参加下さい。「あら100ゴルフ会」について誤解があるようなので説明いたします。参加資格は大変厳しく①大宮ロータリークラブをこよなく愛すること。②ゴルフがちょっとだけ好きな人。上手い人も下手な人も楽しんでいただきたいと思ひます。一度参加していただくと思いますが、楽しい会ですのでぜひ多くの皆様に参加していただきたいと思ひます。



■大竹 敦 会員  
12月13日「大宮ロータリークラブ みんなでゴルフ」と名付けまして行いたいと思ひます。10月28日(水)申込み締め切りです。また申込みについてはFAXかメールにて私のオフィスまでお願ひいたします。



■大宮アルディージャ 渡邊誠吾 会員  
先日10月17日(土)さいたまスタジアム、川崎フロンターレ戦において、2770地区36クラブの900名近いロータリアンの皆様に応援いただきました。ありがとうございます。結果は残念ながら2-3で破れてしまい、また現在順位も15位と崖っぷちですが残り5試合がんばりますのでまたご観戦よろしくお願ひいたします。



卓話 「氷川の神」



皆さんは大宮にお住まいなので、見沼田圃はよくご存じのことと思ひます。私も大宮生まれの大宮育ちで、子供のころは見沼田圃と用水、まだ武蔵野の面影を残していた周辺の雑木林が何よりの遊び場でした。1958年、狩野川台風で芝川が決壊し、見沼が昔の沼に戻ったときのことをよく覚えています。見渡す限り黒々と水を湛え、巨大な蛇のような形をしておりました。享保12年(1727年)、徳川吉宗の時代、井沢弥惣兵衛為永によって干拓され、見沼用水を通して利根川から水を引く以前は、巨大な沼でした。この沼は三つの部分から成り立っているのです。三つの沼という意味で三沼、または神々のすまう尊い沼という意味で御沼、または蛇の沼という意味で巳沼(巳年の巳)と呼ばれていました。氷川神社は巳沼のほとりに祭られた神です。大宮のスサノオノミコトを祭った男体社、浦和のクシナダヒメを祭った氷川女体神社、見沼区中川にあるオオナムチ(オオクニヌシノミコト)を祭った中氷川神社(中山神社)の三社が一体となった、つまり父=母=子の三位一体神として祭られています。この三社を本宮として、他にも、武蔵の国を中心に287の氷川神社があり、ことごとく、沼または川に沿ったところに建てられています。元来は水の神であったと思われま

す。社伝によれば、第5代孝昭天皇の3年、(紀元前473年)に創建されたといひますから、非常に古くから、ここに大なる宮があったことになりま

す。ヤマトタケルノミコトが足に傷を負ったとき、(紀元70年代)、この社にお参りして、足が立てるようになったので、この一帯を足立というようになったと伝えられています。ただしこの頃はまだスサノオノミコトが祭られていたわけではありませ

ん。というのは、第13代成務天皇の時代(紀元84年)に出雲のエタモヒノミコトが武蔵国造とな

って、出雲族が当地に進出して、出雲の鏡川に祭られていたスサノオノミコトをこの地に招来したということがはっきりしているからです。この年代は古事記に基づいて割り出したものですが、実際にはおよそ紀元400年後のことだと考えられています。その前はどんな神が祭られていたのでしょうか。その神はどんな神だったのでしょ

う。今日、これからお話ししようと思ひているのは、このことをご紹介します。出雲族が武蔵の国にやってきたとき、先住民族の蝦夷がすでにスサノオノミコトとよく似た神を祭っていたことを発見し、そのあとを襲って氷川神社を立てました。それが軍事的征服によって行われたのか、両者の棲み分け、協議、和解の上で行われたのかは明らかではありません。スサノオノミコトを頂く出雲族は製鉄技術をもつ農耕民であり、武蔵に進出してきた当時、縄文的な狩猟採集民である蝦夷とは圧倒的な文明の落差があ

って、征服というより、古き神から新しき神へ自然に交替が行われたと考えられます。なぜなら、その神は境内の外に出て、門客人神社に納められ、今でも鄭重に祭られているからです。氷川神社の楼門の右手の奥にアシナズチ、テナズチを祭るとされている社がそれです(図1)。神話によれば、高天原から追放されたスサノオは出雲に降り、ヤマタノオロチに毎年のように娘を食われてきた地元のアシナズチ、テナズチ夫妻にあい、最後に残ったクシナダヒメを貰い受けることを約束してヤマタノオロチを退治しました。この神話に見られるように、旅人が地主の娘を貰うと、旅人が主人となった後、地主が門外に出されて客人になってしまったわけ

です。武蔵を奪われた古き蝦夷の神は次第に北に退き、大和朝廷の蝦夷征伐に

圧迫され、最終的には津軽半島に押し込められてしまひます。この最古の神の正体は長い間分からなくなっていたのですが、昭和50年代、『東日流外三群誌』という書物が発見されてから、かなりはっきりとしてきました。その神の名はアラハバキと言ひます。この神は常に三神一体で表されています。図2がその代表ですが、天神(父)=アラ、地神(母)=ハバキ、子神=荒吐(アラハバキ)の三位一体を表しています。三神とも図3の縄文の遮光器土偶に非常によく似ています。

この三神の姿勢にご注目ください。三神とも両脇に何かを抱える格好をしています。何を抱えているのでしょうか。そのヒントになるのが、紀元前3800年ごろまで遡れるオリエントのウル出土のギルガメシュ王の図像です(図4)。

中央のギルガメシュ王は牛の角を生やし、ライオンのたてがみを持つ怪獣を両脇に抱えています。牛とライオンの合成動物はスフィンクスにも見られますが、おうし座としし座を表し、ともに太陽神を表します。図5は同じくオリエントの出土品でライオンを両脇に挟んだギルガメシュ王を示しています。王者が2頭のライオンを従えているというデザインの起源は非常に古く、太古のユーラシア全体にわたって見られますが、わが国の神社の門前に、狛犬として2頭のライオンが控えているのも、その流れから来ているのでしょ

う。この三神は現代ヨーロッパの国章にも残されています。ライオンが太陽を表していることを明瞭に物語っているのが、反山玉琮です。中国で夏王朝が出現する以前(紀元前2800~2000年)、揚子江下流(今の杭州)に良緒文化が栄えていましたが、これはその遺跡から発見された遺物です。ここでは王者が両脇に太陽を抱え、足もとに鋭い爪をもつ猛獣を従えています。

王者はここでは二つの太陽を小脇に抱えています。猛獣もまた太陽を表しています。氷川の神の前身、遮光器土偶のご神体をもつアラハバキは太古から伝わるこの太陽神の伝統を受け継いでいると考えられます。

世界各地の神の名を詳細に調査し、歴史言語学という体系を打ち立てた故川崎真治氏の『謎の神 アラハバキ』によれば、アラハバキのアラは天の太陽神ライオンであり、ハバキは大地母神の蛇であり、アラハバキはその父母から生まれた子=救世主であると言ひてお

ります。古代エジプトではアラがオシリス、ハバキがイシス、アラハバキはホルスに相当します。この三位一体はカトリックのキリスト教が父と子と聖霊の三位一体を確立するときのモデルとなった最古の、そして真の三位一体です。世界各地の密儀宗教はことごとく父、母、子の三位一体に基づいていました。出雲の神も蝦夷の神もこの同じ三位一体を受け継いでいたのだと思ひます。出雲では、父はスサノオ、母はクシナダヒメ、子はオオナムチ=オオクニヌシに当たります。蝦夷のアラハバキは出雲のスサノオに征服され、怨念神になったと考える人もいますが、私はそう思ひません。アラハバキとスサノオは本質的には同じ神なので、その交替はごく自然に行われたと思ひます。したがって大宮の氷川神社は他の所ではとくに滅んでしまった最古の三位一体神を現代でも篤く斎き祭る、世界でも類まれな神社なのです。

氷川の神は、アラ川、アラ井、アラ木、アラ船など天神アラにちなんだ多くの地名をもつ武蔵の国に祭られました。

では、なぜ王者は1つの太陽ではなく、2つの太陽を抱えているのでしょうか。この謎を解くカギとなるのが日光です。日光には男体山、女峰山、その間に真名子(愛子)山があり、典型的な父=母=子の三位一体神を表しています。日光はもともと二荒(にこう)と書き、フタアラ山と呼ばれていました。ふたつのアラ、二つのライオン、2つの太陽という意味です。日光も、崇神天皇の皇子が進出して、毛の国を打ち立てる以前は蝦夷が治めており、アラハバキの聖地であったに違ひありません。

2つの太陽とは顕密、2つの意味があります。誰にでも解りやすい顕教的な意味と、ある霊的体験のないものには理解

できない密教的な意味です。顕教的な2つの太陽とは夏至と冬至の太陽であり、この2つの日の出の観測から、古代の王者は暦を作成してました。氷川神社の三社も日光の三山も夏至と冬至の観測地点に位置しています。

一方、密教的な2つの太陽とは外的太陽と内的太陽、つまり天空を駆ける灼熱の太陽と内的瞑想の極致で出会う大いなる光明神である太陽です。後者はエジプトのラー、ギリシアのアポロン、ペルシアのミトラス、インドのビルシャナ仏、大日如来、阿弥陀如来、日本のアマテラスオオミカミといった色々な名で知られています。

近代の比較宗教学では、このような太陽神を外的太陽、自然の太陽と解釈し、古代人はあらゆる生命をはぐくむ太陽エネルギーを崇拜の対象としていたのだ、と考えていますが、これは密教的、内的太陽神を全く理解していない証拠です。古代の太陽神は内的な光明であり、その輝きの中で一切の自我を焼き尽くすことが究極の悟りであり、ニルヴァーナ(涅槃)であり、神の国での復活であり、救済でした。

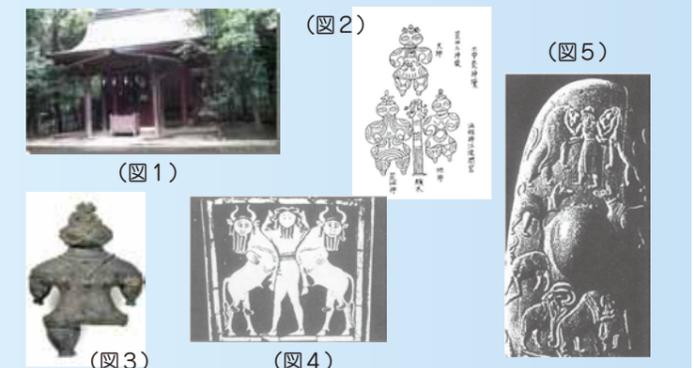
古代の2つの太陽とは、ひとつは内的太陽としての天神アラ=父、2つはそれが物質界、可視界に現れた外的太陽、大地母神ハバキ=母であり、その2つを両脇に抱えて統合する子が王者であり、救世主であり、アラハバキなのです。

人間は誰でも内に天神であり、内的太陽であるアラをいただき、自然の太陽であるハバキの恩恵を受けて生きています。その2つの太陽を手挟んで、両者を統合することがアラハバキの人生の究極目的です。アラハバキとはわれわれ一人ひとりのことなのです。

私はかつて大学で哲学を教えていました。専攻はプラトン哲学です。プラトンによれば、目に見える自然の太陽は、この世という洞窟の中にとる篝火であり、真の太陽は洞窟を出たところに輝く内的な太陽だと考えます。ここに2つの太陽という思想が初めて哲学的に表明されています。

プラトン哲学を出発点として古代の太陽崇拜を探究してゆくうち、太古の太陽神は、洋の東西を問わず、父=母=子の三位一体神であることに気が付いておりました。あらゆる文明、すべての宗教がここから出発しています。

今回、卓話の機会を与えられて、氷川の神の正体を探るうち、ゆくりなく、その原初の神こそ、生まれ故郷の大宮の神なのだということが分かって、戦慄しております。ありがとうございます。



■プロフィール  
1940年 埼玉県大宮市に生れる。大宮市立南小学校、南中学校、県立浦和高校卒業  
1959年 東京大学入学  
1968年 東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。  
1971年 名古屋大学助教  
1980~1981年 文部省在外研究員としてロンドン大学に留学  
1986年 宗教儀礼研究所所長を経て、現在 イシス学院 理事長。  
著者『実践カバラ』(1986、人文書院)『秘伝カモワン・タロット』(2001、学習研究社)、『魔法カバラ入門』(2007 学習研究社)等。  
訳書 ホール『象徴哲学大系』(共訳、1981、人文書院)ほか。